

産後うつ の現状と課題～新型コロナによる影響は？

宗田 聡先生

広尾レディース院長 筑波大学非常勤講師

令和2年12月7日（月）18:30～20:30

筑波大学総合研究棟D 公開講義室

ウェブセミナーも同時開催

日本では出産時の母体死亡や新生児死亡はこの30年間で劇的に改善し、世界でもトップクラスの成績まで向上してきました。医療関係者は、たくさんの妊産婦や新生児の命が救われるようになってきたと思っていたところ、最近になって妊娠から出産1年以内に自殺により命を失っている妊産婦が想像していた以上に多いことがわかり、その多くは産後うつをはじめとしたメンタル疾患によることもわかってきました。また妊産婦のメンタルヘルスは子供の発育や虐待などにも密接に関連していることがわかっています。そのため、最近では、妊娠中から産後にかけて産科だけでなく、小児科や精神科、地域保健所など多くの関係機関の連携と切れ目ない支援のシステム構築に力が注がれています。

ところが、今回の新型コロナによる社会的大きな変化により、周産期メンタルヘルスにおけるサポートや妊産婦への地域の取り組みも後退せざるえない状況になっています。

今回は、産後うつを中心に、周産期メンタルヘルスの現状や課題と、今回の新型コロナによる影響などについても考察していきたいと思えます。

今回の勉強会では、広尾レディース院長の宗田聡先生に「産後うつ の現状と課題～新型コロナによる影響は？」の演題で、お話していただく予定です。会場へ直接お越しになる方は、事前申し込みの必要はございません。ウェブセミナー受講希望の方は、11月30（月）までに下記QRコード・URLからお申し込み下さい。

この講演会は日本プライマリ・ケア連合学会茨城県支部の後援を受けています。この講演会に参加されますと、日本プライマリ・ケア連合学会 専門医・認定医2単位と認定薬剤師1単位が取得できます。

また人間総合科学学術院専門基盤科目とフロンティア医科学専攻の医科学セミナー4（プライマリ・ケア）の一部となっています。

【申し込みフォーム】

<https://forms.gle/KFnw5NEMi2X4uGqy9>



連絡先：筑波大学医学医療系 福祉医療学
柳 久子 TEL&FAX：029-853-3496